

研究交流計画の目標・概要

[研究交流目標] 交流期間 (最長 5 年間) を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。
(自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。)

持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development, ESD) は、2015 年に国連で採択された『持続可能な開発のためのアジェンダ 2030』及び『持続可能な開発目標 (SDGs)』の中で卓越した位置を占めている。国連総会の決議 72/222 に述べられているように、ESD は SDGs 達成への鍵である。そして、ESD の展開において最も重要な役割を果たすのは、教師である。したがって、ユネスコの ESD 推進施策である『ESD for 2030』(2020~2030 年) では、ESD の教師教育は優先すべき行動分野となっている。

こうした状況に鑑み、アジア唯一の ESD のユネスコチェアである岡山大学は、日本学術振興会研究拠点形成事業 (B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) (2017~2019 年度) を実施し、アジア 7 か国において ESD の教師教育の中核的な研究交流拠点の確立、学術ネットワークの構築、及び次世代の研究者の育成を進めてきた。次にこの事業を発展させ、政府開発援助ユネスコ活動費補助金 (2018~2020 年度) を得、アジア太平洋地域 16 か国 34 機関と共同で「ESD の教師教育のアジア太平洋フレームワーク」を作成した。現在、このフレームワークは同地域における ESD の教師教育の標準であり、その研究教育の到達点となっている。

一方、本申請の相手国拠点機関は、サステナビリティのユネスコチェアであり、岡山大学と同様に ESD の教師教育の優れた実績を有している。しかしながら、そうした実績を全世界に普及・還元する方策は未だ定まっていない。よってこの打開には、拠点機関の国際協働をグローバルに展開することが求められる。

そこで本事業では、アジア太平洋の拠点機関 (岡山大学) と協力機関が蓄積している ESD の教師教育の成果をもとに、欧州 (ドイツ、ノルウェー、スロベニア) と北米 (カナダ) の拠点機関、アフリカと中南米のサブ拠点機関、そして世界の 130 の協力機関と共同で「ESD の教師教育のグローバル・フレームワーク」を提案する。この開発と普及において、機関間の連携とともにユネスコ本部及び地域事務所との連携を図ることにより、自立的で継続的な国際研究交流拠点を全世界に構築することをめざす。そして、大学院段階での共同教育プログラムの開発、キャリア形成支援のための若手研究者トレーニング・プログラムの開発、及び長短期の留学・招へいによる頭脳循環を進めることにより、次世代の中核を担う若手研究者の育成をめざす。

[研究交流計画の概要] 我が国と交流相手国の拠点同士との協力関係に基づく多国間双方向交流として、どのように 共同研究、 セミナー、 研究者交流を効果的に組み合わせて実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

共同研究

アジア太平洋地域 16 か国 34 機関が共同で開発した「ESD の教師教育のアジア太平洋フレームワーク」をもとに、これを全世界に通用するフレームワークへと発展させる。そのために、授業研究を基盤とした ESD の教員養成・教員研修プログラムを開発する研究 (R-1)、プログラムの効果的普及を図るためのガイド (手引き) を作成する研究 (R-2)、及び ESD の機関包括型アプローチ (機関全体で取り組むアプローチ) の指標を開発する研究 (R-3) を共同で行う。このうち R-1 では、気候変動、再生可能エネルギー、生物多様性、防災、貧困削減、持続可能な消費と生産といった SDGs の主題についての科学的教養と、それを教育するための教職専門の知識をつなぐことを共通課題とする。研究チームは、アジア太平洋の拠点機関 (日本: 岡山大学) 欧州の拠点機関 (ドイツ: ロイファナ大学リューネブルク、ノルウェー: インランド・ノルウェー応用科学大学、スロベニア: リュブリャナ大学) と北米の拠点機関 (カナダ: ヨーク大学)、アフリカと中南米のサブ拠点機関、そして世界の 130 の協力機関から組織する。

セミナー・シンポジウム

共同研究の遂行に沿って、セミナーを日本側拠点機関 (岡山大学) で 2 回 (1 年目と 4 年目)、海外拠点機関で各 1 回 (2~4 年目) 開催する。また、ユネスコの ESD の国際集会において、シンポジウムを開催する。セミナー・シンポジウムでは、共同研究の成果をはじめとして、大学院段階での ESD の共同教育プログラムやキャリア形成支援のための若手研究者トレーニング・プログラムの成果を共有する。また、若手研究者の研究交流の場を設け、若手のアカデミック・パフォーマンスを向上させる。

研究者交流

共同研究、セミナー・シンポジウムの実施に加え、研究交流のフォーラムとしての学術雑誌「ESD Research and Practice」を創刊し、ESD 教師教育の研究教育を世界に発信する。同誌に寄稿された論考をもとに、「Teacher Education for ESD」のブックシリーズを逐次刊行する。また、若手研究者の長短期の留学・招へいを拠点機関、サブ拠点機関、及び協力機関の間で進める。こうした研究者交流を通して、ESD の教師教育の国際的な先端研究ネットワークを構築し、そのアカデミックな水準を高める。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間(最長5年間)終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

事業名 SDGs 達成に向けた ESD (持続可能な開発のための教育) の教師教育の先端拠点形成

背景 SDGs 達成をめざしたユネスコの新施策『ESD for 2030』の推進(2020年~2030年) アジア唯一の ESD のユネスコチェアである拠点機関(岡山大学)及び協力機関による ESD 教師教育の優れた成果(JSPS 拠点事業や政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業の実績) ESD 教師教育の世界全体への普及、そのための世界の拠点機関の国際協働の必要性

目標 全世界に ESD 教師教育の先端研究ネットワークを形成
その主軸となる、 ESD 教師教育のグローバル・フレームワークの共同開発

方法 共同研究

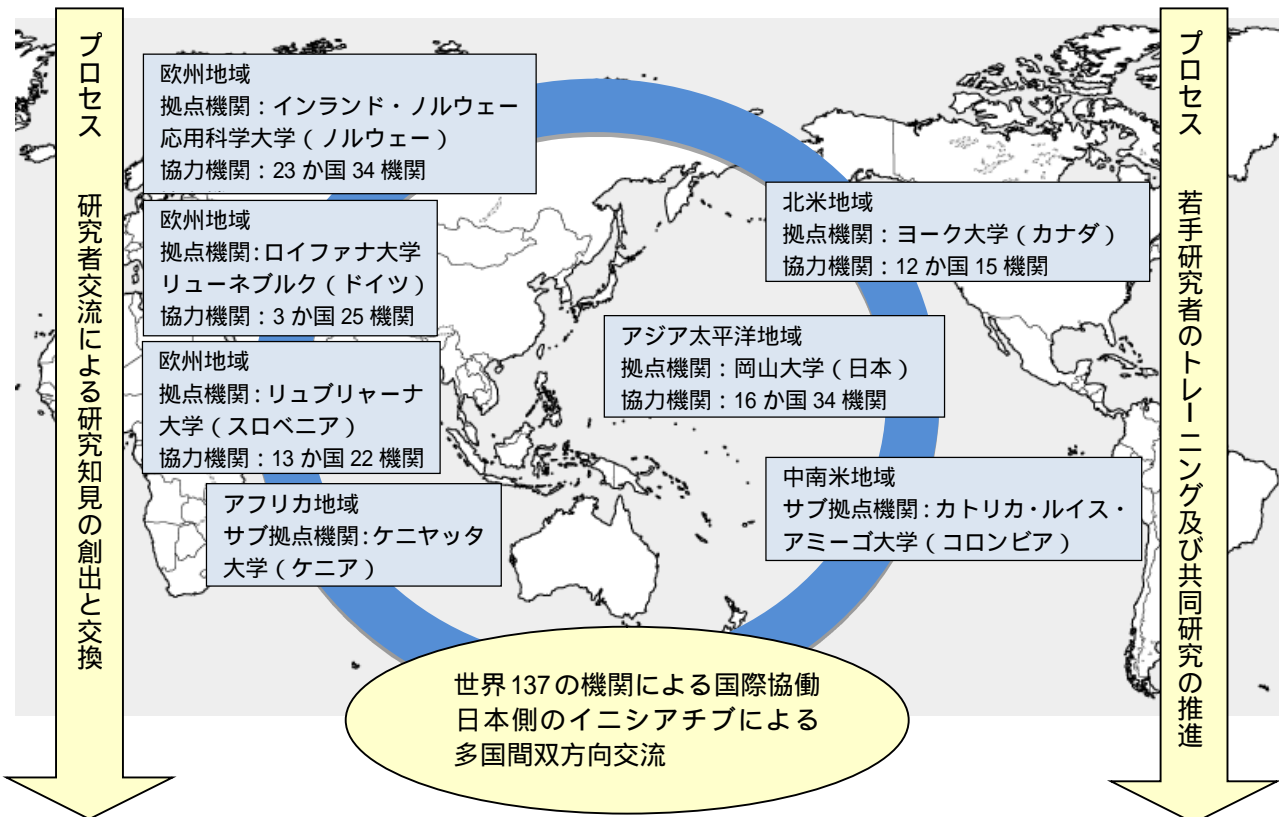
セミナー・シンポジウム

研究者交流

R - 1 : 授業研究を基盤とした ESD の教員養成・教員研修プログラムの開発
R - 2 : ESD の教師教育プログラムの効果的普及を図るためのガイド(手引き)の作成
R - 3 : ESD の機関包括型アプローチ(機関全体で取り組むアプローチ)の指標の開発

国際セミナー：
岡山大学で2回、海外拠点機関で各1回開催。
国際シンポジウム：
ユネスコの ESD の国際集会で複数回開催。

研究者交流のフォーラムとしての学術雑誌「ESD Research and Practice」を創刊。研究成果や研究交流の進展状況を全世界に情報発信。



成果 ESD 教師教育のグローバル・フレームワークの提案
最終成果 全世界における、 ESD 教師教育の自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築、 ESD 教師教育の先端研究ネットワークの構築、 次世代の ESD 教師教育の研究者の育成

意義 2030 年の SDGs 達成に向けた ESD 教師教育のベンチマークの確立